

公共施設調査・整備特別委員会

令和4年10月4日

1 報告事項

(1) 軽井沢少年自然の家のあり方検討について

【資料】

2 その他

3 閉会中の特定事件継続調査事項について

軽井沢少年自然の家のあり方検討について

令和4年度の検討体制及びスケジュール

令和3年度の軽井沢少年自然の家のあり方検討協議会(以下、「検討協議会」という。)での議論の内容を踏まえて、今年度は「軽井沢少年自然の家のあり方基本構想策定委員会(以下、「基本構想策定委員会」という。)」を設置し、施設に必要な機能を整理するとともに、施設の整備・運営手法の検討も行い、基本構想として取りまとめる。

1 基本構想策定委員会委員構成

氏名	役職等
佐藤 久美子	玉川大学大学院教育学研究科名誉教授
佐藤 和紀	信州大学教育学部准教授、元東京都公立学校教員
小林 勇司	元千代田区立麴町小学校・お茶の水小学校校長
赤坂 寅夫	元中央区立佃中学校校長、元千代田区教育委員会指導主事
櫻井 千佳子	武蔵野大学グローバル学部教授
山口 勝己	東京都市大学共通教育部教授
中村 裕子	千代田区立麴町小学校校長
堀越 勉	千代田区立神田一橋中学校校長
島田 功一郎	千代田区立九段中等教育学校副校長
佐藤 尚久	千代田区教育委員会事務局子ども部教育担当部長

2 これまでの経過及び今後のスケジュール(予定)

令和4年3月	検討協議会報告書作成及び議会報告
6月	公共施設調査・整備特別委員会 現地調査 区立学校保護者及び教職員意見聴取(別添資料 1-2,1-3 参照)
7月	第1回基本構想策定委員会
9月	第2回基本構想策定委員会
10月	第3回基本構想策定委員会(予定)
12月	基本構想(案)作成及び議会報告 基本構想策定
令和5年3月	整備計画及び運営等事業者決定及び議会報告

校外学習施設「軽井沢少年自然の家」に関するアンケート調査の結果について

1 調査期間

令和 4 年 6 月 16 日から令和 4 年 6 月 30 日まで

2 調査対象及び回答数

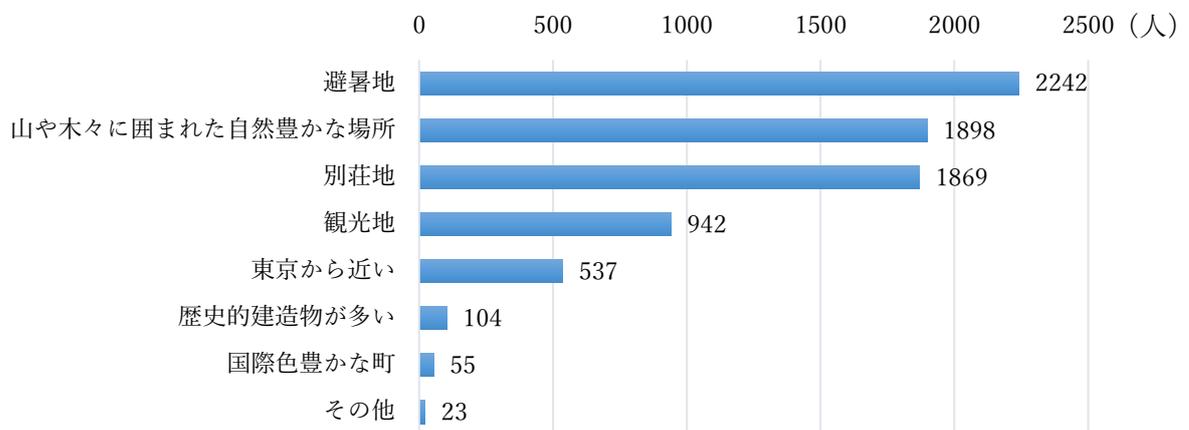
区内公立学校に通う児童・生徒 4,941 人の保護者（回答数 2,697 件）

3 調査方法

Microsoft Forms（選択式/記述式）

4 結果

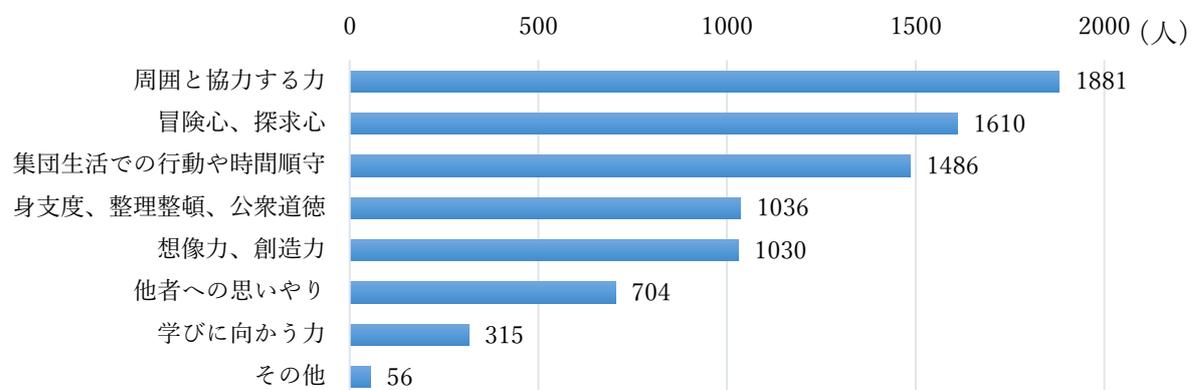
（設問 1）軽井沢と聞かれて何をイメージされますか。【回答は 3 つまで】



〈その他の主な意見〉 ・スキー場が近い ・学生時代の合宿地 等

（設問 2）校外学習を通じて、お子様にどのような力を身に付けてほしいですか。

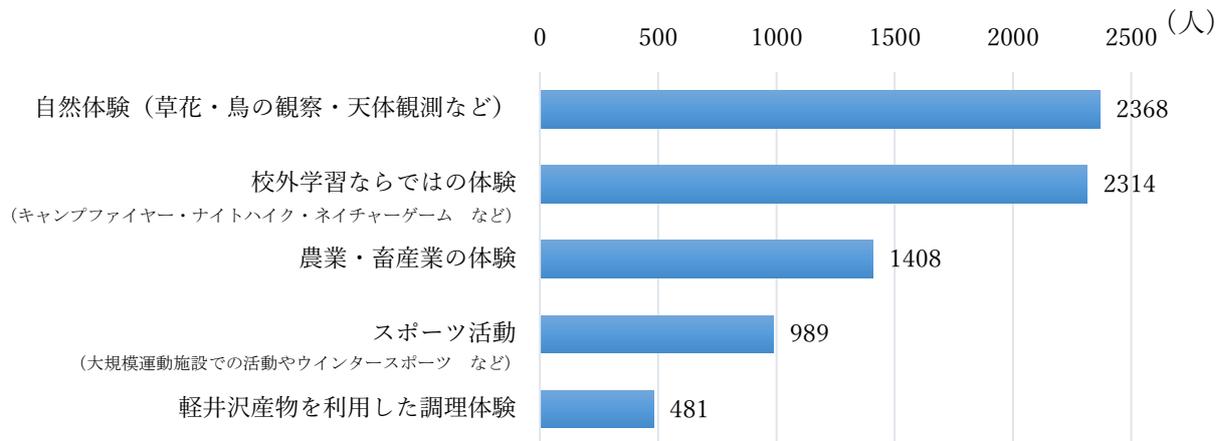
【回答は 3 つまで】



〈その他の主な意見〉 ・自然と触れ合い雄大さを感じる ・友情を深める 等

(設問3) 軽井沢で校外学習をする際、お子様にどのような体験をさせたいですか。

【回答は3つまで】



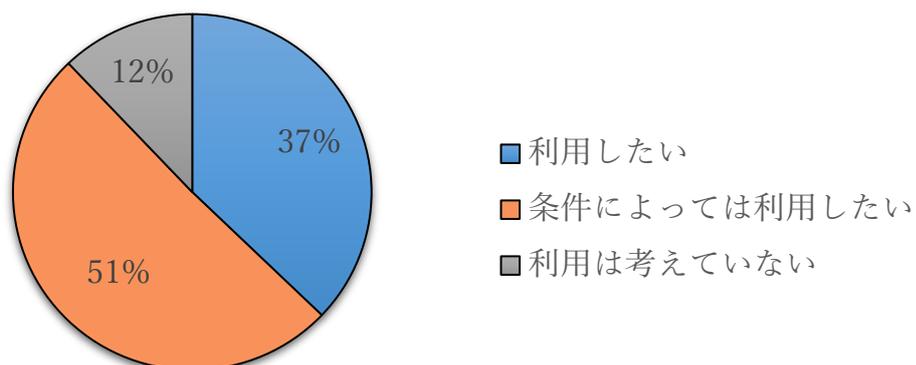
(設問4) 設問3の回答以外で、既成概念にとらわれず、軽井沢で校外学習を行うにあたって新たに組み込んでほしいことがありましたらお書きください。

【自由記述】

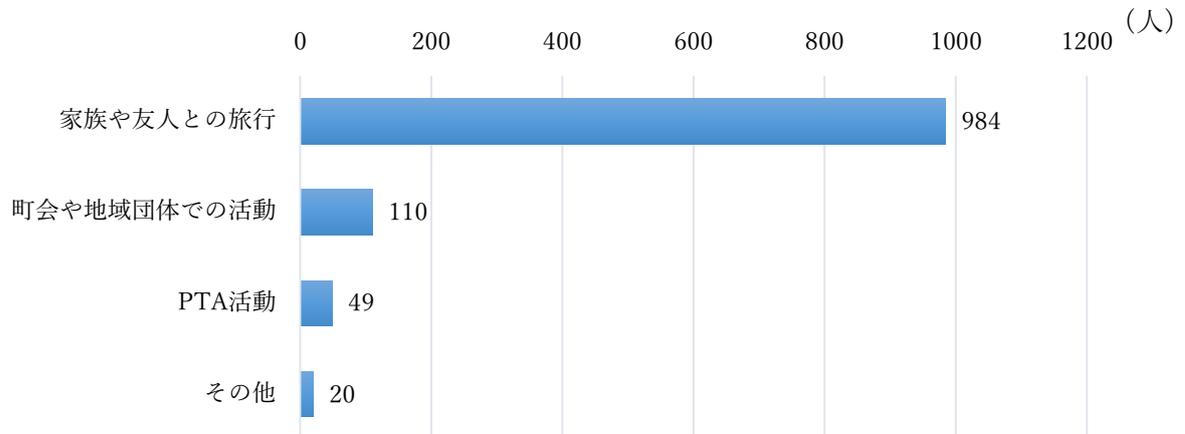
[主な回答] ※①～③については、教職員と意見交換を行った。(別添資料1-3参照)

- ①英語○○ (例：学習、教育、生活、合宿、漬け、キャンプ、セミナー 等)
- ②班別行動学習 (子どもたちで活動を選択したり計画したりする。)
- ③チームビルディング
- ④サバイバル体験 (テント泊、自炊、火起こし、防災訓練も含む。)
- ⑤地元の子どもたちや地域との交流
- ⑥歴史学習
- ⑦観光業・宿泊業等の職場体験・職業体験

(設問5) 校外学習として利用されていない期間、施設を一般開放した場合に利用したいですか。

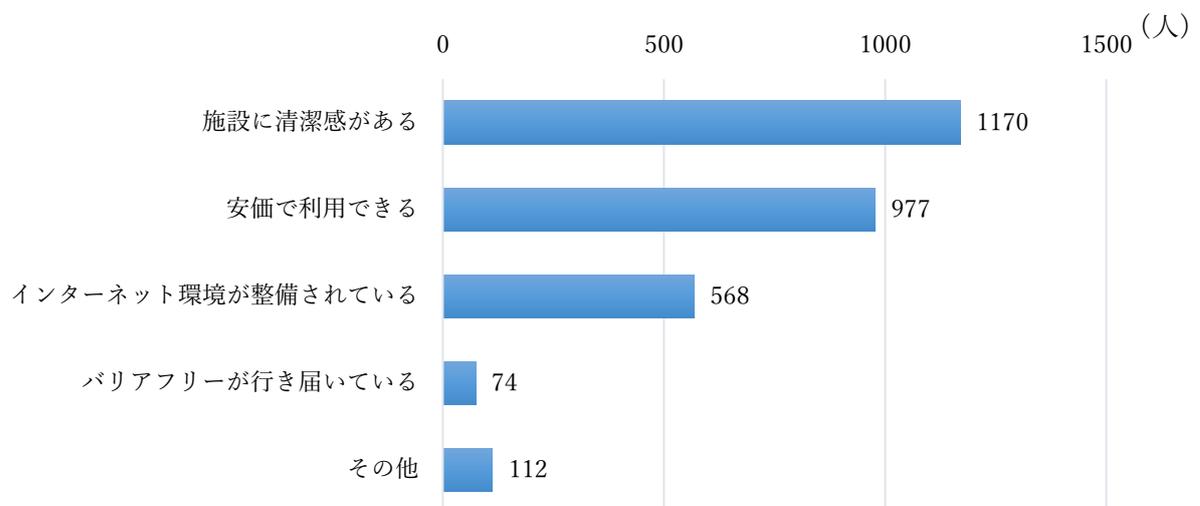


(設問6) 設問5で「利用したい」とお答えの方にお聞きします。どのような利用をしたいと思いますか。【回答はいくつでも】



〈その他の主な意見〉 ・部活やスポーツクラブチームの合宿 ・会社や区主催のイベント 等

(設問7) 設問5で「条件によっては利用したい」とお答えの方にお聞きします。どのような条件があれば利用したいと思いますか。【回答はいくつでも】



〈その他の主な意見〉 ・BBQ やキャンプができる ・冷暖房が完備されている
 ・セキュリティが整っている ・駅からの送迎・交通手段がある
 ・オンライン予約ができる 等

校外学習施設「軽井沢少年自然の家」での学習プログラムの検討にかかる 教職員への意見聴取の結果について

軽井沢少年自然の家で行う学習プログラムを検討するにあたり、教職員のこれまでの校外学習指導の経験等を踏まえた意見を反映するため、以下の1, 2について、区立小・中・中等教育学校の教職員へ意見聴取（意見交換）を実施した。

1 各学校における学習プログラムの検討

(1) 概要

軽井沢少年自然の家でどのようなプログラムの実施が考えられるか、各学校の教職員に意見聴取した。

(2) 各学校への意見聴取結果一覧

NO.	プログラム内容
1	地元の学校等との交流活動
2	現地の方との交流を兼ねた出前講座
3	天体観測や自然観察、キャンプ、野外活動
4	農作業体験、観光・宿泊施設等での職業体験
5	I C Tを活用した学習
6	勉強合宿、研修事業の充実
7	部活動合宿やスキー等の運動、レクリエーションの活動
8	自然を生かしたオリエンテーリングの実施

2 保護者アンケートの結果に基づく意見交換

(1) 概要

保護者アンケートの「設問4 既成概念にとらわれず、軽井沢で校外学習を行うにあたって新たに取り組んでほしいことがありましたらお書きください」に対する回答のうち、特に回答数が多かった

- ① 英語○○（例：学習、教育、生活、合宿、漬け、キャンプ、セミナー 等）
- ② 班別行動学習（子どもたちで活動を選択したり計画したりする。）
- ③ チームビルディング

について、教職員と意見交換を行った。

(2) 意見交換の結果

① 英語〇〇 (例：学習、教育、生活、合宿、漬け、キャンプ、セミナー 等)

<話合いの視点>

〇〇に入る内容、実施時期と対象学年・対象者 など

<話合いの内容>

- ・様々なプログラムに英語を取り入れることが可能 (例：必要な食材を英語で手に入れるバーベキューなど)。活動の全てを英語で行うだけでなく、一部に英語を組み込むことも可能。
- ・各学校・学年の実態に合わせた、ワークショップ形式の宿泊行事の実施。
- ・オンラインを活用した海外との交流。

② 班別行動学習 (子どもたちで活動を選択したり計画したりする。)

<話合いの視点>

実施方法、交通手段、行先例 など

<話合いの内容>

- ・グループ毎にチェックポイントをクリアしながら行うオリエンテーションや飯盒炊爨、スポーツ等。
- ・行先については、自然体験等の体験活動やお土産を購入する場所等。
- ・交通手段として、例えば、同じ方面でバスの送迎をするのはどうか。
- ・小学生はオールフリーでの企画は難しいと思うが、行先をセレクトさせる方法を取れば可能。
- ・困った時の連絡手段として、タブレット端末を活用することで、いつでもどこでも教員とつながることが可能。

③ チームビルディング

<話合いの視点>

プログラム内容、実施規模 (人数)、時期と対象学年 など

<話合いの内容>

- ・軽井沢の自然を生かしたオリエンテーリングを実施し、目的を達成する事でグループやクラスの絆を深める。
- ・飯盒炊爨やプロジェクトアドベンチャーなど、グループで協力し助け合いながら親睦を深め、達成感を体験できる施設が敷地内に設置されていると良い。
- ・実施の時期は春～秋が良い。
- ・対象学年は小学5年生～中学3年生 (中学1年生はクラスづくりのためにも4月に実施できると良い)。